

リハビリテーション科（訓練部門）



# リハビリテーション科

## 1. 診療体制

### ①スタッフ・組織について

- 1) 医師部門は、医長をはじめとして医師 4 名非常勤医師 2 名の計 6 名で運営している。
  - 2) 理学療法部門は、理学療法士長 1 名、副士長 1 名、運動療法主任 3 名を合わせ計 22 名で運営している。
  - 3) 作業療法部門は、作業療法士長 1 名、副作業療法士長 1 名、作業療法主任 2 名を合わせ計 15 名で運営している。
  - 4) 言語聴覚療法部門は言語聴覚士長 1 名、主任言語聴覚士 1 名を合わせ計 8 名で運営している。
- 以上、合計 46 名の療法士とともに、助手が理学及び作業療法部門に各 1、2 名配置されており、リハビリテーション科(以下リハ科)を運営している。

## 2. 当科での取り組み

### 当院での主な疾患

#### 1) 脳血管疾患等リハ

脳血管障害、それらに由来する高次脳機能障害、失語症、嚥下障害、神経難病(パーキンソン病、多発性硬化症(MS)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、脊髄小脳変性症(SCD)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、ギラン・バレー症候群(GBS))、他

#### 廃用症候群

脳血管障害後遺症、肺結核、誤嚥性肺炎を含む肺炎後廃用症候群、循環器・消化器疾患等に由来する廃用症候群、他

#### 2) 運動器疾患リハ

体幹・四肢の骨折を含む骨関節障害及びその手術後、他

#### 3) 呼吸器疾患リハ

慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺結核、肺非定型抗酸菌症(NTM症)、非結核性抗酸菌症(MAC症)、誤嚥性肺炎、呼吸器及び消化器疾患の手術前後、他

### ③2018年度 治療訓練単位数及び診療報酬

集計として、全体では 80,404 件、177,010 単位、41,004,161 点であった。  
前年度より実績は増加した。

## (1) 理学療法部門

理学療法士長 丸山 昭彦

### ①2018年度の実績

2019年度の理学療法部門の年間総件数は 44,707 件、総単位数 84,921 単位、総点数は 19,300,700 点である。入院 99.5%、外来 0.5%で入院訓練がほとんどを占めている。  
理学療法部門は、呼吸器疾患・脳血管疾患の 2 チーム編成とし、より効率的な運営体制をとっている。また、3 西回復期病棟を中心に療法士は 365 日体制で稼働している。

### ②理学療法部門の活動

- ・脳卒中亜急性期からの専門的な理学療法を行なっている。チーム医療の一員として地域の保健福祉と連携し在宅生活へのきめ細かな支援を行なっている。

退院前カンファに先立ち関連スタッフによる「退院前訪問指導」や通院等屋外活動の可能性についての確認あるいは拡大に向けての「公共交通訓練」等も積極的に行っている。

- 呼吸班は周術期より積極的に呼吸リハを実施し早期離床に取り組んでいる。
- 在宅酸素の会(通称HOTの会):在宅酸素治療を必要としている患者の支援、医療面での教育、在宅生活サポート等を目的に、東京病院が主催する年2回の講演会に参加している。呼吸器内科グループとしての医師、病棟及び外来看護師、薬剤師、栄養管理士、理学療法士等が協力し、また在宅酸素機器のメーカーも得て開催されている。毎回50名を越す患者やご家族が参加されている。理学療法士は、a.効率の良い安全な呼吸方法の指導 b.呼吸機能に応じた運動や動作の方法の指導 c.実技指導等をスタッフ持ち回りで毎回行っている。
- 当院看護師への肺理学療法、呼吸介助法の教育並びに実技指導を、要請に応じて行っている。
- RSTチームの一員として、毎週病棟でラウンドに参加している。
- 看護部からの要請で看護教育の一環としてトランスファー等の介助法の研修を行っている。
- 実習生を7校から受け入れを行っている。今年度は延べ14名の学生の指導を行った。

## (2) 作業療法部門

作業療法士長 大島真弓

### ①2018年度の実績

2019年度の作業療法の、診療の年間延べ件数は24,885件、総単位数59,542単位、総点数は13,772,720点である。外来患者は2.3%を占める。回復期病棟は365体制で稼働している。

### ②作業療法部門の活動

- 作業療法部門では、脳血管障害、呼吸器疾患、神経難病、整形外科疾患、がんなどの入院患者への作業療法を中心に行っている。また、高次脳機能障害や上肢の整形外科疾患などの外来患者への作業療法も一部行っている。作業療法の視点は、早期から在宅支援まで、また終末期まで、身体と心の両面から、生活のリハビリテーションを行うことにある。日常生活動作(ADL)、家事、復職、趣味生きがい活動など一人一人のニーズに基づいた多様なリハビリテーションを実施している。在宅生活支援については、「退院前訪問指導」「公共交通訓練」「買い物など公共機関の利用」など地域生活場面に即したリハビリテーションを行っている。
  - チーム医療としては、従来のカンファレンスや院内のチーム医療など職種横断的なチームへの参加に加え、在宅酸素の会・HOTの会・RST等のチーム医療にも定期参加し患者への啓蒙活動を行っている。また、高次脳機能やスイッチ、トランスファー等の病棟スタッフへの伝達などを行っている。
  - 地域医療への貢献としては、多摩北部ネットワークでの会議出席および高次脳機能部会企画研修での講師や地域呼吸研修会での講師なども務めている。
  - 回復期リハビリテーション病棟には、高次脳機能障害患者など復職支援を必要とする若年～中年患者がおり、外来での継続支援を実施している。東京病院への地域からの期待も高い。
  - 近年は呼吸器疾患からの作業療法処方が増加しており、これら多様なニーズに応えうる質の高いリハビリテーションを行うために人材育成にも積極的に取り組んできた。
- 実習生を5校から受け入れを行っている。今年度は述べ7名の学生指導を行った。

## (3) 言語聴覚療法部門

言語聴覚士長 藤塚史子

言語聴覚療法の年間延べ件数は10,830件、総単位数は28,628単位、総点数は6,993,765点である。そのうち外来件数が1割を占め、外来患者の割合が比較的多いことが特徴である。これは失語症や高次脳機能障害等の継続的な治療を必要とする患者が多く、また近隣に紹介出来る施

設が少ないことや施設側の受け入れ体制の問題から、当院での外来通院治療が継続されていることを如実に表している。また通常の言語聴覚療法の他に、神経心理検査や聴力検査、音響分析、摂食機能療法など診療報酬に加算される検査や療法を行っている。

言語聴覚療法部門では、失語症、運動障害性構音障害、聴覚障害、音声障害をはじめとする様々なコミュニケーション障害に対する評価、訓練を行っている。

それに加え、最近注目されている嚥下障害に対しても積極的に評価、訓練を行っている。また今年度は実習生1名の指導を行った。

### 3. リハビリテーション科の業績

- ・ 第73回 国立病院総合医学会  
言語聴覚士の現状と今後の指針、取り組み  
藤塚史子
- ・ 第73回 国立総合医学会  
～入浴介助から、段階的に入浴自立に至った症例～  
水口寛子
- ・ 第73回 国立病院総合医学会  
人工呼吸器離脱患者のリラクセーションを図った症例  
花村芽衣
- ・ 第73回 国立病院総合医学会  
HCU患者の早期介入効果報告  
見波亮
- ・ 第73回 国立病院総合医学会  
回復期病棟におけるFIM報告  
大釜由啓

者の身体に及ぼす影響について 塚本陽子

- ・ 呼吸ケア・リハビリテーション学会誌  
慢性呼吸器疾患患者における入浴動作中の経皮的動脈血酸素飽和度の変動.(査読審査中)塚本陽子
- ・ 国立医療学会誌  
リハビリテーションからの変革・チャレンジ-私たちが本領を発揮する時代を創成しよう-言語聴覚士の現状と課題、今後の方針、取り組み(査読中)藤塚史子